平和を知る

多摩市立聖ヶ丘中学校 2年 ^{につた}新田 ^{のあ}乃彩

私は学校の授業で広島や長崎の原爆について学び、沢山の命がうばわれた事、争いからは争いしか生まれないという事を学びました。私は原爆が投下されてしまったその後やどのような被害が出てしまったのかなど詳しく知りたいと思いました。

私は今回、多摩市子ども被爆地派遣事業で広島に行き心に残った事が三つあります。

一つ目は戦争の悲惨さです。私は資料館と被爆者の方の話を聞き、原爆と戦争の恐ろしさを知りました。資料館では自分よりも幼い子達は何人も亡くなっている事、体の奥深くに入り込んだ放射線が多くの人々を苦しめた事を知りました。熱線を浴びた階段を見てこの熱線を人が浴びたと思うと、辛くて悲しくて資料館で見た階段が鮮明に残っています。被爆者の方の話を聞き、体に残った放射線が後遺症になり亡くなった方もいる事を知りました。私はこの原爆の話を聞いて二度と戦争は起きてはならない事だと改めて思いました。

二つ目はみんなが原爆について知り、平和を願っている事です。私は平和記念資料館や平和記念式典で日本の方以外に他国から来た方も原爆について知ろうと学んでいる所を何度も見かけました。灯ろう流しでは多くの方の平和への思いが書かれた灯ろうを見ました。広島にいる多くの人達が1945年の8月6日の出来事を忘れずに語りついでくれている事、平和を願っている事を知りました。

三つ目は平和への思いは同じだけれど実現方法が違う事です。私は広島の留学生の方と平和への実現方法というテーマで意見交換をした時に気づいた事があります。それは自分達の思う、平和とは何か？というテーマで意見交換をした時はみんな同じ思いだったのが平和への実現方法というテーマになると実現方法への意見がひとりひとり違う事に気づきました。相手に「伝える」事を大切に人もいればもっと勉強をがんばる人もいて本当に、人それぞれだと思いました。それでも平和への思いという点では同じでみんな平和を大切にしようとしているのだと思いました。この話を書いている時に思い出したのが事前学習での平和紙芝居と現地に行ってから被爆者の方との会話です。平和紙芝居では絵と言葉でわかりやすく原爆投下直後の話をしてくれました。平和紙芝居してくれた方達は他の場所でも紙芝居をしていて平和の尊さを伝えていて聞きました。被爆者の方との交流では辛い体験を話してくれました。それはみんなに原爆投下、8月6日の日の事を忘れないでほしいからだと思います。

私は今回広島の派遣事業で学び、知った今だからこそ、多くの人達と交流をして学んだ事や知った事、平和について今後、多くの人に伝えて知ってもらいたいです。